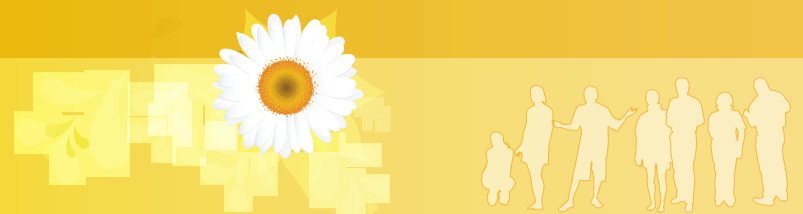


平成26年第2回定例区議会

代表質問 (要旨)



※全文は、区議会ホームページでご覧になれます。

日本共産党区議団

飯島 和子

介護のサービスと負担について

問 ①区の事業となる要支援者へのサービスは、後退等がないよう区独自基準が必要では②あんしんセンターの拡充を軸に、初期認知症の方への支援体制づくりを求める③第6期介護保険事業計画で保険料軽減はどう具体化されるのか④利用料2割負担になる想定人数と、その軽減策は⑤要介護2以下でも実情に応じて特養ホーム入居を可能に⑥特養ホーム待機者ゼロに向けて施設整備を具体化すべき、等。

答 ①予算等を通じて明らかにする②状況に応じた体制づくりに努める③抑制策を検討する中で所得段階設定も具体化する④550人程度。軽減策は考えていない⑤必要度の高い順に入所できるよう判定基準の改善等に努める⑥介護保険事業計画等改定の中で示す。

保育の願いに応えるために

問 ①待機児対策として、年度初めから0歳以外を定員オーバーにしている実態は改善すべき。定員以下でスタートし、定員弾力化をしなくても希望の保育園に入れるよう保育需要数を満たす計画策定を求める②のびのび遊べるスペースが民間保育所にはない。幼稚園の設置基準である園庭と屋内ホールは長時間過ごす保育所に不可欠では。

答 ①弾力化していない数字を基に検討している②公園等の地域資源の活用等により支援している。



公明党議員団

大串 ひろやす

都市政策の大きな転換について

問 少子高齢社会に入り、また、3.11大震災を受け、都市のあり方は大きく変わった。都市政策も大きな転換期を迎えた。都市の拡大と機能を優先とするものから人の幸せと尊厳を優先する政策への転換だ。①今後の都市政策の基本的考え方は②都市計画マスタープランの達成状況は。千代田区の都市としての現況と課題は③地域包括ケアと住宅整備について④借上型区民住宅の今後について基本的考え方は。

答 ①政策転換が必要と認識している。今後も超高齢社会を見据えたまちづくりに取り組んでいく②地域ごとの将来像は区の全面積の6割強が定まっている。災害への備え、都市インフラの保全改修、多様な価値観等に対応した住環境整備が必要と認識③地域包括ケアシステムの実現に向けた住環境づくりのあり方を模索する④入居者や所有者の実態を分析し方向性を出していく。

コミュニティの強化策について

問 社会福祉協議会等やまちみらい千代田等を、行政と地域との間に入り中立的な立場からコミュニティの支援を行う中間支援組織として位置付けては。

答 十分ではないが、中間支援組織的な役割を果たしていると認識。現在、コミュニティ施策の一元的推進について議論し、地域のさまざまな活動主体が自立して活動できるよう支援する。

